

オーストラリアにおけるファームステイ (農業体験泊) について

西 川 喜 朗

追手門学院大学

本稿は平成 18～20 年度科学研究費補助金（基盤研究 B）「オーストラリアの対アジア緊密化に伴う地域変容の研究」（課題番号 18320137, 研究代表者南出眞助）による現地調査による概報である。

1. はじめに

近年, 学校や大学の行事の一環として, 海外での研修や修学旅行の催行, あるいは海外留学などの援助をおこなうところが増えてきた。その対象とされる外国は, 民族や文化が我が国と関連深くて距離的にも近いアジアの国々がまず筆頭にあげられる。しかし, 英語の語学研修を目的のひとつにかかげて研修をしたいとき, 英国・米国だけでなく, 時差がなく安全な国として, オーストラリアに人気が集中するのも当然であろう。

オーストラリアに事務所を置く大手旅行社（クイーンズランド州ケアンズ市内）の話によると, 日本からの修学旅行や研修旅行で, 名所旧跡の見学あるいはこれらの見学と語学研修をかねたものが多いが, 最近特に注目されるものに, ファームステイ（farm stay）があるとのことであった。ファームステイとは, 農家にホームステイ（宿泊）して農業や酪農などを経験することで, その旅行社によると, 2, 3 泊の体験学習を終えた生徒たちは, その研修に非常に満足し, ホストファミリーとの別れを惜しむ様子も格段に印象深い, とのことである。難しい英語ばかりを話さなくても, 屋内外で動物と接したり, 広々とした自然環境で会話も進みやすいのだろう。

そもそも, 修学旅行や研修旅行というのは, 旅行先やその目的によっては, 多種多様であるが, 英語圏の国で, 動物園やテーマパークの見学だけでは得られない, いろいろな体験学習もでき, 安全で時間的・空間的にゆとりのある国, そして英語の研修もできる所といえ, ば, オーストラリアが最適の国だろうと思われる。

本論文では, 2009 年 2 月と 8 月に現地の大手旅行社での聞き取り調査と, インターネットに報告されているものを参考にして, オーストラリアにおけるファームステイの実態と, 将来の見通しについてまとめ考察したい。

2. ファームステイの現状

日本国内の大手旅行社の話によると、オーストラリアへの修学旅行生は年間、約2万名を取り扱っていて、催行月は11月がもっとも多く、次いで10月、12月、5月、6月、と少なくなり、4月はいちばん少ないという。旅行先はオーストラリア国内では、ケアンズ方面とシドニー方面が多く、次いでゴールドコースト方面であるが、隣国のニュージーランドは前2地域より多い時もあるという。

インターネットで、「オーストラリア」、「研修旅行」、「ファームステイ」で検索すると670件近くが出てきた。そのうち、オーストラリアにおける日本の学校関係で実際にファームステイの行事の記述がある66件の報告を参考にして、オーストラリアにおけるファームステイの現状についてまとめた。

ゴールドコースト・シドニー修学旅行（私立高等学校）の一例

	地 名	現地時間	交通機関	摘要（宿泊地）	食事
1日目	関西国際空港発	20:00	JQ 020	空路、ゴールドコーストへ (機内 泊)	夕：機内
2日目	ゴールドコースト着 } ブリスベン郊外	06:05	専用バス	ゴールドコースト到着後、朝食をとり、 トゥーンバに到着後、各ファミリーと対面式 その後、各ファームステイ先へ (ファームステイ)	朝：レストラン 昼：ファームステイ 夕：ファームステイ
3日目	ブリスベン郊外			ホストファミリー先で滞在 (ファームステイ)	朝：ファームステイ 昼：ファームステイ 夕：ファームステイ
4日目	ブリスベン郊外 } ゴールドコースト		専用バス	午前：ファームステイ先を出発、ゴールドコーストへ移動 午後：ゴールドコースト市内自由散策 (ゴールドコースト泊)	朝：ファームステイ 昼：自由食 夕：レストラン
5日目	ゴールドコースト発 シドニー着	早朝 07:15 09:45	専用バス JQ 020 専用バス	空港へ 空路、シドニーへ 到着後、シドニー市内見学 オペラハウス・ミセスマックォリー ズチュア・ロックス地区 ダーリングハーバー・水族館など見学 (シドニー泊)	朝：ホテル 昼：レストラン 夕：レストラン
6日目	シドニー			終日：シドニー班別自主研修 (シドニー泊)	朝：ホテル 昼：自由食 夕：ホテル
7日目	シドニー発 ゴールドコースト着 ゴールドコースト発 関西国際空港着	早朝 08:50 09:15 10:25 18:40	専用バス JQ 019 JQ 019	シドニー空港へ 空路、ゴールドコースト経由、帰国 入国手続後、解散	朝：弁当 昼：機内

ファームステイの報告のある中・高等学校の数を地域別に見ると、以下のごとくであった。

東北—— 1校

關東——20校

中部—— 4校

近畿—— 6校

中国—— 2校

四国——1校

九州—— 13 校 の合計 47 校

ただし、校名および所在地を筆者が確認できなかったものも多数あり、それらは省いた。これらのなかには、毎年ファームステイをおこなっている学校も次年度は他の国での研修を予定している学校（１校）もふくまれる。

大部分の学校では、7日前後の旅程のなかで、現地に到着した日から2泊3日のファームステイを開始している（表1）。さらに、もう1～2日多くをあてている学校もある。また、17日間の語学研修をおこなっている学校がその間に、ファームステイを組み込んでいるところもある。

3. ファームステイ開催地

ファームステイの開催地は、航空機が発着する大都市の郊外で、バスで1～2時間の農村地帯でおこなわれる。大都市とその郊外で地名が確認できたものは、次の通りである。

ケアンズ郊外 ……マンガリーフフォールズ

アサートン

ブリスベン郊外……ツイード、

チェラバー

トウーンバ

シドニー郊外 ……トマム

メルボルン郊外……カイントン

パース郊外 ……ケルバリン

4. ファームステイの手順

朝食後あるいは午後に、生徒たちはバスに乗って、農家の人たちが待っている郊外の中継地に移動し、そこから個々の農家の車で引き取られてゆく。一農家あたり2～数名の生徒が

配属される。終了時もこの中継地にそれぞれの農家の車で送られて来て、バスで市内へ戻り、つぎの研修活動に入る。この中継地で、開始時や終了時に参加者全員で歓迎会または歓送会を行っている学校もある。

5. ファームステイの内容

宿泊先の農家によって体験できる内容は多様で一概に決まってないことが多いようで、その内容は、次のようなものである。

牛、馬、山羊の家畜の世話（給餌、ブラッシング、糞の掃除、小屋の掃除など）、牛や山羊の乳搾り、羊毛仮刈り、乗馬、ハイキング、スーパーマーケットに買い物、近くの川でカモノハシの見学、料理の手伝い、バーベキュー大会、夜空の星の見学、プーメラン作りや投げの体験など。

全体の会では剣道（日本武道）の模範演技、姉妹校との各種の交流行事など、学校によって、きわめて多様である。

6. ファームステイ参加者の感想

オーストラリアでファームステイに参加した生徒たちの「感想」を、インターネット上に紹介されている多数のなかから、おもなものを以下に紹介する。

〈ファームステイの感想〉

参加するまでは英語が通じるかどうか心配だった。

ホームステイするのがいやだった、不安だった。

ホスト達は陽気で親切であった。

家族のように過ごせた。

何とかカタコトでも英語をしゃべることができた。

日本の文化や歴史の説明ができなくて困った。

英語が上手になってファームにお礼を言いにもまた訪れたい。

一緒にいる友達の英語に頼らずに自分でしゃべるようになった。

もっと英語を勉強して話し合いができるようになりたい。

携帯電話のことを聞かれて説明に困った。

生涯最高の思い出だ。

研修の機会を与えてくれた学校、世話をしてくれた先生に感謝したい。

行かせてくれた両親に感謝したい。

コミュニケーション力とともに人間的にも大きく成長したと思う。

日本との違いに本当にびっくりした。

7. ファームステイの効用

ここで、ファームステイという研修行事の効果についていくつか述べてみたい。

メリットとしては、人とのコミュニケーションができるようになる。日常会話の慣用句などが身につくやすい。自分の英語が通じにくくても、なんとか単語を並べて意志の疎通をはからうとする。会話の対象となる事物が身近にあるので、正しい文章でなくても意図することが通じやすく感じる。英会話の勉強をやりたい、と真剣に考える様になる。文化の違い習慣の違いの理解につながる。ホストファミリーとその後の交流がおこなわれて、お互いの信頼関係や相互理解につながる。などなど、よい効果はいっぱい派生する。また、豊かさとは何か、ということも考えさせられるのでは無からうか。

デメリットとしては、少なくとも2,3日以上ステイが必要で、日程上の日数がかかる。ステイ先の家族構成や作業内容により研修内容が微妙に異なる。また、日本へのホームシックに陥ったり、どうしても行事になじめない生徒が出たときのために、関係者はその対策をたてておかなければならない。

8. おわりに

最近では海外研修でオーストラリアの様な農業国へ行く場合は、ここで述べたファームステイが多くなりつつある。顕著な教育的効果があるので、前向きに見つめたい。

一方、視点を変えて、日本国内での同様の行事あるいは見学・研修も見直してほしい。異文化に触れることや英語の勉強は有意義であり重要であることは言うまでもない。しかし、私たち自身が生まれ育った土地の風土や自然環境に触れること、理解することもまた非常に大切な事である。このような学校行事を考える時、国内であるいは隣国で、このような研修あるいは野外でのキャンプ実習やその他の体験学習などで教育的効果を上げる配慮も必要ではないかと思われる。

今後、海外でのファームステイのような行事を継続して発展させるには、行事日数を一日でも多くとるよう留意した方がよい。さらに、予備的研修を行って、参加者が目的意識をしっかりと持って参加することも重要だろう。

おわりにあたり、感想文にあるように、このような機会をつつてくれた「学校」、「先生」、「両親」に感謝したい、というのは、ファームステイにたいする最高の評価といえるのではなかろうか。

参考資料（google）（検索日はすべて 2010 年 01 月 06 日）

[http : //www.obirin.ed.jp/hiscl/gyouji06.htm](http://www.obirin.ed.jp/hiscl/gyouji06.htm)
[http : //www.ktt.ac.jp/harukaze/hs/2nen/h21australia.html](http://www.ktt.ac.jp/harukaze/hs/2nen/h21australia.html)
[http : //www.teihachi.ed.jp/schoollife/syugaku/syugakuryokou.html](http://www.teihachi.ed.jp/schoollife/syugaku/syugakuryokou.html)
[http : //www.hagoromogakuen.ed.jp/blog/archives/cat1/](http://www.hagoromogakuen.ed.jp/blog/archives/cat1/)
[http : //www.toyo.ed.jp/life/life01.html](http://www.toyo.ed.jp/life/life01.html)
[http : //www.kokugakuintochigi.ac.jp/koukou/topics.../syuugaku.html](http://www.kokugakuintochigi.ac.jp/koukou/topics.../syuugaku.html)
[http : //oitahoufu-h.oita-ed.jp/hofu_hi/syugaku.../syugaku_topics_hi.html](http://oitahoufu-h.oita-ed.jp/hofu_hi/syugaku.../syugaku_topics_hi.html)
[http : //www.zyuden.net/school_page/11311233257/ysresult/修学旅行/](http://www.zyuden.net/school_page/11311233257/ysresult/修学旅行/)
[http : //konko2008.exblog.jp/i8/](http://konko2008.exblog.jp/i8/)
[http : //www.edu.pref.ibaraki.jp/board/high/2008high/siritu/13.pdf](http://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/high/2008high/siritu/13.pdf)
[http : //www.kantokokusai.ac.jp/school/studyabroad.html](http://www.kantokokusai.ac.jp/school/studyabroad.html)
[http : //www.meikei.ac.jp/hot/2/](http://www.meikei.ac.jp/hot/2/)
[http : //www.k-seiryu.ed.jp/topics/shokuinsitsu.../080321.htm](http://www.k-seiryu.ed.jp/topics/shokuinsitsu.../080321.htm)
[http : //www.kun-ei-h.ed.jp/content/info/sliffe/](http://www.kun-ei-h.ed.jp/content/info/sliffe/)
[http : //oitamaizuru-h.oita-ed.jp/subsites/syugakuryoko08-1/main.html](http://oitamaizuru-h.oita-ed.jp/subsites/syugakuryoko08-1/main.html)
[http : //www.seinan-jogakuin.jp/club/2416.html](http://www.seinan-jogakuin.jp/club/2416.html)
[http : //www.city.kagoshima.lg.jp/_1010/shimin/.../0003668.html](http://www.city.kagoshima.lg.jp/_1010/shimin/.../0003668.html)
[http : //www.shuko.ed.jp/topics/index.php?id=510](http://www.shuko.ed.jp/topics/index.php?id=510)
[http : //konko2008.exblog.jp/8131929/](http://konko2008.exblog.jp/8131929/)
[http : //girls.school-all.com/high.../komazawa-gakuen-joshi.html](http://girls.school-all.com/high.../komazawa-gakuen-joshi.html)
[http : //ashima-hs.sakura.ne.jp/principal/.../backnum200706.shtm](http://ashima-hs.sakura.ne.jp/principal/.../backnum200706.shtm)
[http : //local-7.dot.thebbs.jp/1053688799.e40](http://local-7.dot.thebbs.jp/1053688799.e40)
[http : //www.pref.aichi.jp/noudai/nikki/191207.html](http://www.pref.aichi.jp/noudai/nikki/191207.html)
[http : //kaisei12.blog27.fc2.com/blog-date-200811.html](http://kaisei12.blog27.fc2.com/blog-date-200811.html)
[http : //www.ishikawa-c.ed.jp/~tatsuh/index16f.htm](http://www.ishikawa-c.ed.jp/~tatsuh/index16f.htm)
[http : //www2.ouhs.ac.jp/namisho/school_life/index.html](http://www2.ouhs.ac.jp/namisho/school_life/index.html)
[http : //www.chikushi.ac.jp/gakuen50/high-junior/index.html](http://www.chikushi.ac.jp/gakuen50/high-junior/index.html)